

図4の太い線は、今も残っている川、細い線は、暗渠化された川です。下水の合流地域では図3にあり図4に示されていない河川や用水もすべて「かつての河川・水路」となりました。分流地域は、多摩川下流に上水道の取水堰があり、川の水をきれいに保つために、昭和25年に分流方式とすることが定められていたそうです。(品川用水は、下水道と関係なく昭和26年頃に埋め立てられました。)

3. 呑川親水公園は、どのようにして生まれたのでしょうか？

下流から暗渠化工事が長期にわたって進む中で、地元から「深沢中学の校歌にも歌われている『呑川の流れ』の姿を残してほしい」という強い要望が区に寄せられました。区は、駒沢通り・玉川通り間の870mについて、下水本管を両側の側道の下に敷設し、川の部分を親水公園にする基本計画を昭和63(1968)年度に定め、平成元(1989)年度に着工、平成5(1993)年度に完成しました。

川は暗渠化されましたが、親水公園になったため、水の流れを見ることができます。

4. 呑川親水公園は、どのような公園でしょうか？

桜はいつ植えられた？

駒沢村深沢の区画整理事業により、呑川が改修された際、ソメイヨシノが植えられました。昭和11(1936)年頃撮影された航空写真に桜並木が写っています。(『深沢・桜新町100年史』p29参照)

水はどこから？

雨水、川底からの湧水、無原罪特別保護区・深沢の杜緑地の池のオーバーフロー水を利用し、最下流の120tの貯水槽に貯め、ポンプで循環させています。貯水槽は右端上の写真の手前部分の川の下部に設けてあります。

親水公園を見るポイントは？

- 3つのコンセプト: 「住宅地にふさわしい親水公園」
「きれいな水の復活」「桜並木の保存」
- 水路: 生態系・湧水の保全のため、川底は荒木田土(粘土質の土)を敷き、水生植物が育ちやすいようにゆるやかに蛇行させています。
- 植栽: 日当たりや桜の日陰を考慮。桜の後も楽しめるように多様な植物が植えられています。
- 橋: 右手前の5つの写真は、新桜橋(国道246号)川橋(駒沢通り)の間に架かる橋を上流から順に並べたものです。素材を主に自然石系とし、それぞれデザインが工夫されています。
- 護岸: コンクリートの上に鑄御影石が積まれています。憩えるデッキや水際に降りられる階段も設けました。
- 「^{ふるさと}手づくり郷土賞 人々が集い憩う水辺づくり」受賞
(国土交通大臣表彰(1994(平成6)年7月))



稲荷橋(高欄と橋面の改修)



西山橋(架け替え)



御嶽橋(高欄と橋面の改修)



伊勢橋(架け替え)



開設時のリーフレット表紙



デッキ(4か所)



新桜橋(国道246号)



呑川橋(駒沢通り)



三島橋(復活・人道橋)



水際に降りられる階段

本稿は、世田谷区玉川公園管理事務所、東京都南部下水道事務所へのヒヤリング、リーフレット『呑川親水公園』(世田谷区玉川総合支所土木課)、『呑川親水公園の整備について』(東麻由美(世田谷区玉川総合支所土木課)等を参考にまとめました。
出典(赤字は、加筆): 図1 『呑川流域河川整備計画概要』平成29年9月、東京都 図2・図3 『世田谷の河川と用水』昭和52年12月、世田谷区教育委員会、図4 『せたがやの水辺』平成29年4月、世田谷区環境政策部環境保全課